

## 特集

## メロンの輸出

- ★2022年は輸出数量、金額ともに過去最大！
- ★香港への輸出が全体の約9割を占める！
- ★成田空港が輸出数量、金額ともに全国シェアトップ！

## はじめに

メロンといえば、とろけるような柔らかな口当たりと甘い味わいが世代を問わず愛されており、高級フルーツの代表的な存在だと思えます。そんな日本産メロンの輸出が近年増加しています。

海外への輸出には、鮮度を保持した輸送のほか、仕向国の植物検疫制度や残留農薬基準の違い等の課題があります。しかし、包装資材・輸送方法の開発、植物検疫協議や日本産メロンの魅力発信といった輸出促進への取り組みが進み、2022年には輸出金額・数量とも過去最大となりました。

## 年別輸出動向

右の図1は、最近の15年間におけるメロンの年別輸出動向を示しており、順調に伸びていることが分かります。2022年は輸出数量が1,308トン、金額が13億2千万円で、数量金額ともに前年比約1.2倍となり、確認できる1996年以降で過去最大を記録しています。

2013年8月、農林水産省は農林水産物・食品の輸出額を2020年に1兆円規模に拡大するという目標に向けて、輸出戦略を策定しました。この取り組みが功を奏して輸出が伸びたと業界は指摘しています。また、更なる輸出



令和5年4月20日  
東京税関

(図1)メロンの年別輸出動向



拡大に向けて「食料・農業・農村基本計画」等において、2025年までに2兆円、2030年までに5兆円とする輸出額目標を設定しています。

なお、業界によりますと、コロナ禍の2020年以降に輸出が増加しているのは、コロナにより外出が制限された為、内食化が進み、その中で食を楽しむ材料として、高価で品質の高い日本産青果物がフィットしたのではないかとのことです。

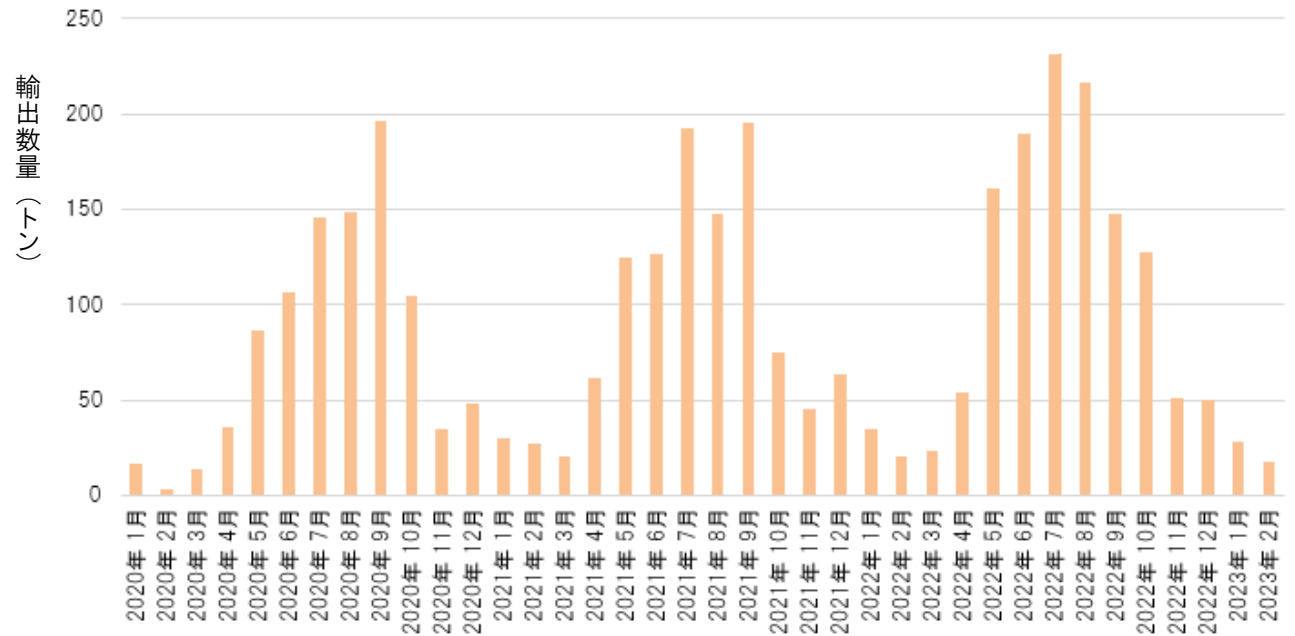
## 月別輸出動向

右図2は、メロンの月別輸出数量の推移です。毎年5月頃から輸出数量が増加し、7～9月頃にピークを迎えていることが分かります。

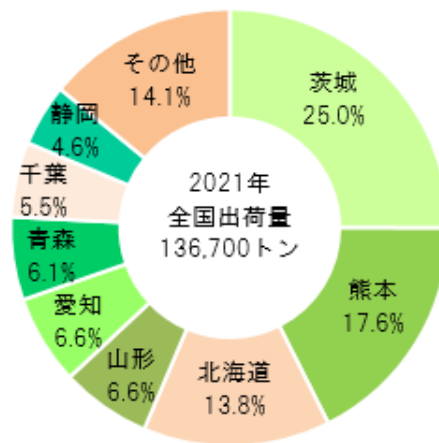
メロンは温室栽培で周年出荷が可能なものと、露地栽培で夏場だけ出荷が可能なものに分けられます。また、露地栽培メロンでも品種によって収穫時期が異なり、種類も豊富な為、4月～10月頃まで収穫が可能です。下図3は農林水産省の統計から、都道府県別の出荷量シェアをグラフに、表1は都道府県別順位と出荷量を、表2は産地別の主な品種を表にしたものです。

メロンの全国出荷量1位は茨城県となっており、出荷量は34,200トンで、全国シェアが25%となっております。美味しいメロン作りには、水はけのよい土地や1年を通じて温暖な気候、昼夜の温度差が必要で、そういった環境条件が整っていることで、茨城県は鉾田市が一大産地となっているようです。次いで、熊本県、北海道と続き、この3地域で5割を超えています。

(図2)メロンの月別輸出数量の推移



(図3)メロンの都道府県別出荷量シェア



(表1)メロンの都道府県別出荷量 (2021年)

順位	都道府県	出荷量(トン)
1位	茨城	34,200
2位	熊本	24,000
3位	北海道	18,900
4位	山形	9,090
5位	愛知	9,040
6位	青森	8,390
7位	千葉	7,570
8位	静岡	6,270
	その他	19,240
	全国	136,700

(表2)産地別主な品種

	主な品種
茨城	イバラキング、クインシー、アールス、アンデス、オトメ、タカミ等
熊本	肥後グリーン、アンデス、クインシー、オレンジハート、アールス等
北海道	夕張、富良野、らいでん等

図3、表1 出典：農林水産省 作物統計作況調査(野菜) より作成

※出荷量は収穫したもののうち、生食用又は加工用又は業務用として販売した量で、輸出数量だけでなく、国内向けを含むもの。

### ～豆クイズ～

(問題)メロンは果物でしょうか？それとも野菜でしょうか？

(答え)果物、野菜どちらも正解。

総務省の家計調査や文部科学省の日本食品標準成分表では果物、農林水産省の統計では野菜として扱われており、目的や用途によって使い分けています。

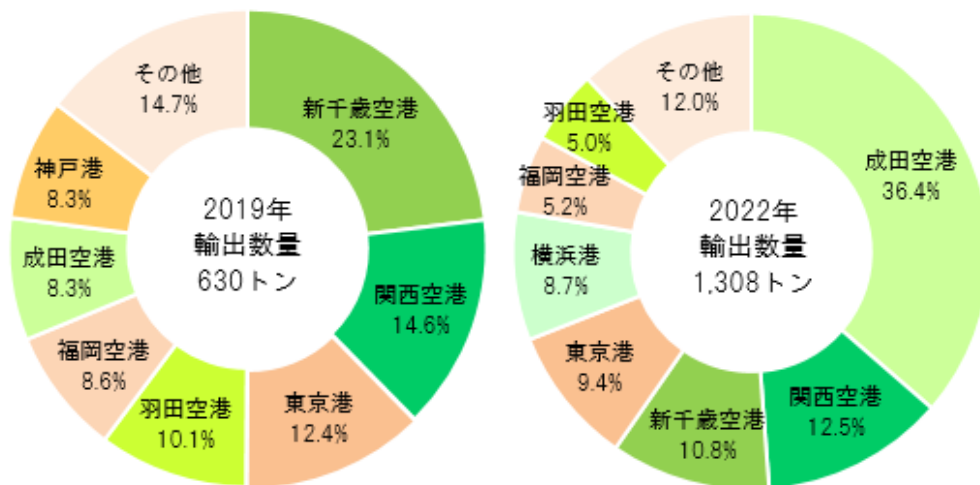
## 港別輸出動向

下図4を見ると、2022年の港別輸出数量の1位は成田空港、2位は関西空港、3位は新千歳空港で、これら3空港で全体の約6割を占めています。コロナ禍以前の2019年の輸出数量の1位は新千歳空港、2位は関西空港、3位は東京港で、利用される港もコロナ禍以前と変化しており、成田空港からの輸出が急増していることがわかります。

業界によりますと、コロナ禍では航路が限定されていた為、成田空港に集中し、成田からの輸出が急増したのではないかとのことです。

また、メロンの輸出では、鮮度を保持し輸送することが重要です。その為、包装材料として、エチレンの吸着作用により成熟を抑える鮮度保持フィルムが使用されることもあるそうです。東京港や横浜港からの海上輸送の場合は、コンテナを冷却し温度を管理するだけでなく、酸素と二酸化炭素の濃度を調整した鮮度保持コンテナ(CAコンテナ)の利用が多いとのこと。

(図4)港別構成比(輸出数量) 2019年と2022年の比較

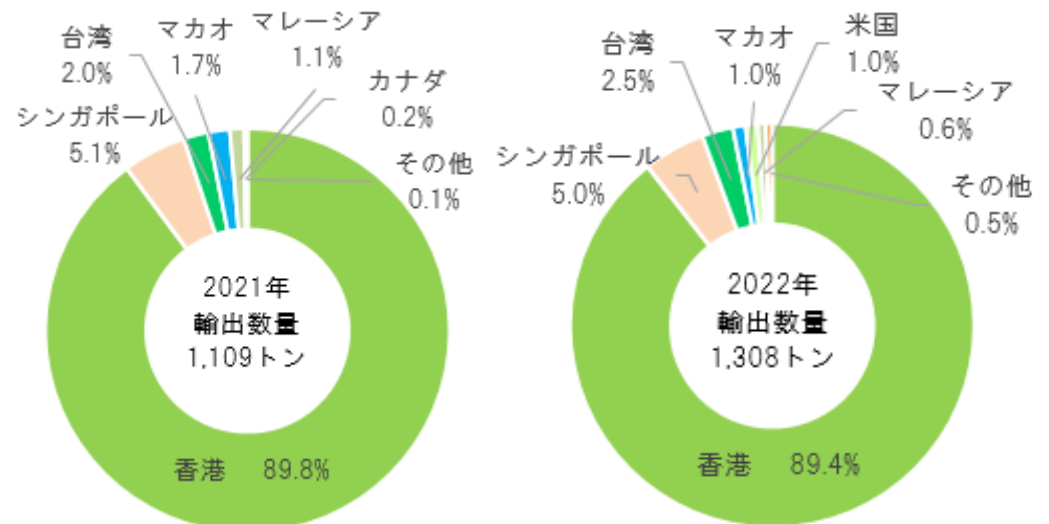


## 国(地域)別輸出動向

下図5は、2021年と2022年の国(地域)別輸出数量のシェアです。2021年、2022年とも香港向けが約9割を占めており、シンガポール、台湾、マカオと続いています。業界によると、香港向けが多いのは、植物検疫証明書が不要であることや富裕層が多いこと等が挙げられるそうです。また東南アジアは華僑社会が形成されていて、中秋節の際などに果物を贈答品とする習慣がある為とのこと。一方、中国は植物検疫上の理由から日本産メロンの輸入が禁止されています。

輸出先は近距離のアジア向けがほとんどのシェアを占めていますが、2022年は米国向けが輸出数量13トン、金額3千万円と増加しました。業界によると、米国本土への輸出はこれまで検疫上の理由で出来ませんでした。2021年11月に日本産メロンの輸出が解禁となり、米国への輸出が増加したとのこと。日本産メロンはスプーンですくって食べるもので、甘く口の中でとろけるような食感から、フォークで刺して食べる固く甘みの少ないメロンとは別ものと受け止められているようで、高級レストランでの提供が考えられるとのこと。

(図5)国(地域)別シェア(輸出数量)



## おわりに

メロン市場の今後の見通しについては、業界によると、東南アジア等は所得水準の向上により、市場規模が拡大することを期待しているとのことでした。米国等の地域はレストラン需要やクリスマス等のパーティー需要により、拡大が期待されます。

### 【資料編】

年別輸出数量・金額の推移(2008年-2022年)

年	輸出数量 (KG)		輸出金額 (千円)	
		前年比		前年比
2008年	69,322	142.0%	141,364	96.3%
2009年	85,446	123.3%	89,073	63.0%
2010年	94,479	110.6%	104,449	117.3%
2011年	40,172	42.5%	36,817	35.2%
2012年	84,671	210.8%	65,367	177.5%
2013年	121,816	143.9%	99,225	151.8%
2014年	187,027	153.5%	157,700	158.9%
2015年	309,155	165.3%	279,620	177.3%
2016年	353,200	114.2%	331,114	118.4%
2017年	416,314	117.9%	422,614	127.6%
2018年	492,412	118.3%	494,414	117.0%
2019年	629,519	127.8%	594,425	120.2%
2020年	941,242	149.5%	811,749	136.6%
2021年	1,108,827	117.8%	1,065,640	131.3%
2022年	1,308,191	118.0%	1,324,345	124.3%

本特集の「メロン」は、輸出統計品目番号「0807.19-000」に属する品目です。(1996年以降)

08.07 パパイヤ及びメロン(すいかを含む。)(生鮮のものに限る。)  
-メロン(すいかを含む。)

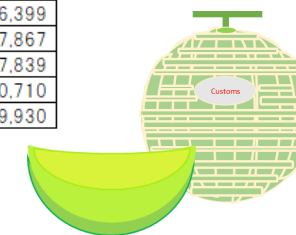
0807.11-000 ---すいか

0807.19-000 ---その他のもの

※2022年分は確々報値、2023年1、2月分は確報値です。

月別輸出数量 (2020年-2023年2月)

2020年		2021年		2022年		2023年	
年月	輸出数量 (KG)	年月	輸出数量 (KG)	年月	輸出数量 (KG)	年月	輸出数量 (KG)
2020年 1月	16,316	2021年 1月	29,650	2022年 1月	34,991	2023年 1月	28,563
2月	3,172	2月	27,616	2月	20,473	2月	18,161
3月	14,180	3月	20,486	3月	23,888		
4月	36,299	4月	61,745	4月	54,056		
5月	86,605	5月	124,487	5月	160,753		
6月	106,098	6月	126,249	6月	189,869		
7月	145,793	7月	192,179	7月	231,416		
8月	148,778	8月	147,581	8月	216,399		
9月	196,028	9月	195,108	9月	147,867		
10月	104,355	10月	75,285	10月	127,839		
11月	35,258	11月	45,316	11月	50,710		
12月	48,360	12月	63,125	12月	49,930		



航空貨物と海上コンテナ貨物の数量・金額と割合(2022年)

港別輸出数量・金額 (2019年、2022年)

港	2019年		2022年	
	数量(KG)	金額(千円)	数量(KG)	金額(千円)
成田空港	52,076	64,257	475,703	520,487
関西空港	91,764	122,900	162,894	197,753
新千歳空港	145,347	90,627	141,601	118,208
東京港	78,359	55,015	122,658	105,306
横浜港	49,239	26,658	113,457	67,685
福岡空港	53,908	68,826	68,678	84,799
羽田空港	63,607	87,001	65,610	93,219
その他	95,219	79,141	157,590	136,888
計	629,519	594,425	1,308,191	1,324,345

	数量(KG)	数量割合	金額(千円)	金額割合
航空貨物	933,052	71.3%	1,040,202	78.5%
海上コンテナ貨物	375,139	28.7%	284,143	21.5%
計	1,308,191	100.0%	1,324,345	100.0%

国(地域)別輸出数量・金額 (2021年、2022年)

国	2021年		国	2022年	
	輸出数量(KG)	輸出金額(千円)		輸出数量(KG)	輸出金額(千円)
香港	996,070	930,546	香港	1,169,735	1,144,094
シンガポール	56,218	58,550	シンガポール	64,963	63,315
台湾	22,100	17,372	台湾	32,505	32,269
マカオ	18,939	37,412	マカオ	13,157	27,701
マレーシア	12,539	12,517	米国	12,762	30,374
カナダ	1,910	5,639	マレーシア	8,278	7,849
その他	1,051	3,604	その他	6,791	18,743
計	1,108,827	1,065,640	計	1,308,191	1,324,345

取材協力：一般社団法人 日本青果物輸出促進協議会

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎  
http://www.customs.go.jp/tokyo/